

算数科 小学校 2年

単元名 「かくれた数はいくつ」
啓林館「わくわく算数2上」

単元の流れ（全5時間）

【第1時】（本時）

主な学習内容

- ・数量の関係を、ブロックを使って表す。
- ・減る前の数を求める逆思考の問題を解く。

「活用」の力育成のために

（ポイント①）

数量関係を理解させるために、ブロック操作の時間を十分確保し、数量関係をとらえさせる。

【第2時】

主な学習内容

- ・テープ図について理解する。
- ・増える前の数を求める逆思考の問題を解く。

「活用」の力育成のために

（ポイント②）

ブロックを並べた帯図をテープ図に置き換え、どちらも同じ数量の関係を表していることを確かめさせる。

【第3時】

主な学習内容

- ・数量の関係をテープ図に表す。
- ・減った数を求める逆思考の問題を解く。

【第4時】

主な学習内容

- ・テープ図を問題解決に進んで用いる。
- ・増えた数を求める逆思考の問題を解く。

評価問題

【第5時】

評価テスト

単元目標

- 加減の2要素1段階で逆試行の問題を題テープ図を利用して解決する。

単元構成の意図

本単元では、加減の逆思考について学習する。加減の逆思考の類型は、 $\square + a = b$ $a + \square = b$ $\square - a = b$ $a - \square = b$ の4種類である。

場面としては、増加、合併、求残、求差など色々ある。

逆思考の問題は、児童にとって大変抵抗がある問題である。本単元では、このことをふまえて、初めに「ある大きさが未知のもの」から取り扱うようにしている。その中でも、線分図(テープ図)がとらえやすく、演算が加法になる「減少する数量と残った数量が分かっている、全体の大きさを求める問題」を最初に扱うようにしている。

「テープ図」は問題の数量の関係を、線分を使って表したもので、文章題を解くときの有力な助けとなる。第2学年は、線に幅のある図を使うので、テープ図と呼んでいるが、線分図の指導であることに変わりはない。

「活用」の力を育てるポイント

- ①ブロック操作によって、文章が表現している内容を具体化する。
- ②ブロックをテープ図に置き換え、テープ図から数量関係を見いだしたり、数量関係をテープ図に表したりする。



HOME

本時の流れへ

CLICK

単元の詳細はこちら